

リーディングプロジェクトの展開について



令和7年8月7日（木）

LP1

担当：みどり推進課

大宮ストリートプランツの展開

[期間]

2025年8月25日～2026年2月28日まで（約6カ月）

[場所]

(エリアA)

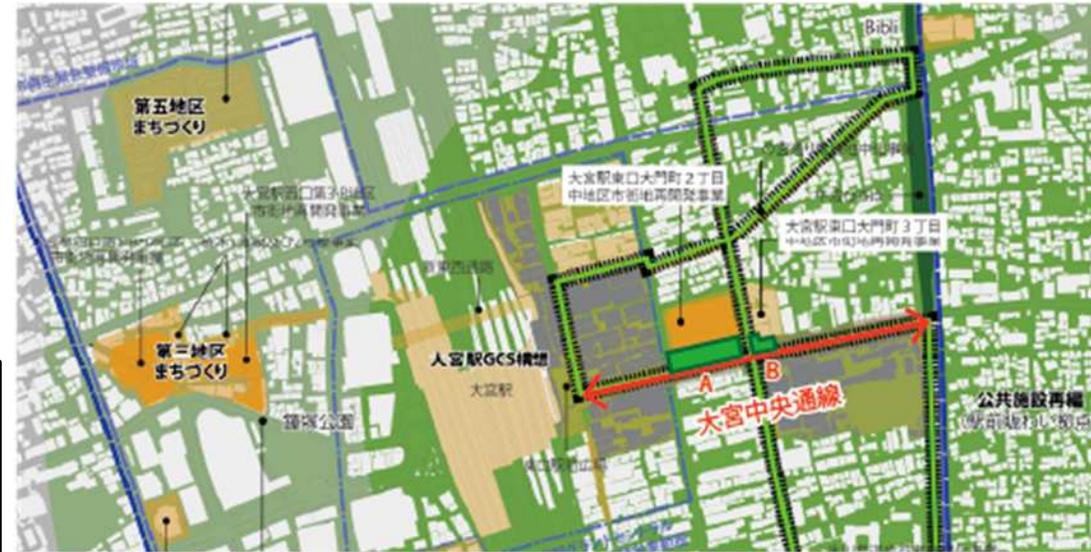
設置鉢数：80鉢 維持管理者：中央デパート

(エリアB)

設置鉢数：20鉢 維持管理者：埼玉りそな銀行大宮支店
計100鉢

[令和7年度実施のポイント]

- ①「半常設型（半年間の長期間設置）」の設置/維持管理の運用
- ②ヒアリング等による定性的評価検証



大宮ストリートプランツの展開

ヒアリング等調査

目的

ストリートプランツ(緑化滞在空間)の利用性・活用性について定性的な情報を得るため、ヒアリング調査及びアンケート調査を行い、緑化滞在空間ガイドラインへ反映できる知見を得ることを目的とする

調査方法

1. 利用者アンケート

利用性については、緑化滞在空間を利用した方が利用しやすさの視点で、利用の用途や目的等が答えられるように現地でのQRコード設置等によるフォームアンケート方式により調査する。

2. 事業者ヒアリング

活用性については、大宮門街前を活用する事業者の視点で、活用時の気づきや活動との関係等が答えられるようにサンプル事業者へのヒアリング方式により調査する。

3. 維持管理者ヒアリング

維持管理に携わる方々の視点で、維持管理のしやすさ、利用者や活用者に対する効果や課題対策などについて答えられるように、対象者に対するヒアリングを行う。

日常的な利用とイベント時の活用それぞれにおける定性的な評価、あるいは利活用者と維持管理者の双方の定性的評価を踏まえ、ガイドラインの作成に向けたストリートプランツの効果や課題方策を明らかにする。

LP1

担当：みどり推進課

大宮ストリートプランツの展開

ソーシャルファンディング “企業協賛プラン”

概要： ストリートプランツへの協賛ステッカーの掲出

協賛ステッカー 3枚 /1エリアあたり

金額： ¥300,000(税別)/1エリアあたり

期間： 2025年8月25日～2026年2月28日

場所： 大宮門街前歩道部 @JR大宮駅東口から徒歩3分

掲載情報： プランツの詳細レイアウトは別紙をご覧ください。掲出内容詳細については別途ご相談（屋外広告物条例の遵守が必要となります）
滞在什器の仕様や植物の種類等は設置環境を考慮した上で実施主体の判断となります。



協賛ステッカーの掲出イメージ



サイズは直径12cm程度を想定



ロゴ・メッセージ・デザインの参考事例

設置個数： 大宮門街前歩道部の3エリアが対象



ソーシャルファンディング “購入プラン”

概要： ストリートプランツ(不織布)1点の購入 + 応援メッセージ&売約済札の掲出

※定型デザインとなります
掲出内容に対するご希望はお応え致しかねます

金額： 低木¥10,000(税別)、中木¥20,000(税別)、高木¥30,000(税別)

※協賛時に現地で選定いただけます
※現地にてご自身でお持ち帰りいただける方を購入対象といたします

期間： 2025年8月25日～2026年2月28日

場所： 大宮門街前歩道部、埼玉りそな前 @JR大宮駅東口から徒歩3分



プランツサイズイメージ：低木



プランツサイズイメージ：中木



プランツサイズイメージ：高木

見沼田圃におけるカーボンマイナスの取組み

○見沼田圃グリーンカーボン推進事業

事業の背景・目的

【背景】遊休農地の増加や活用されない公有地が見られ、土地利用の推進が必要

【目的】空気中のCO₂を固定化するという「カーボンマイナス」の取組を推進し、地球温暖化対策に貢献する農業を目指す。

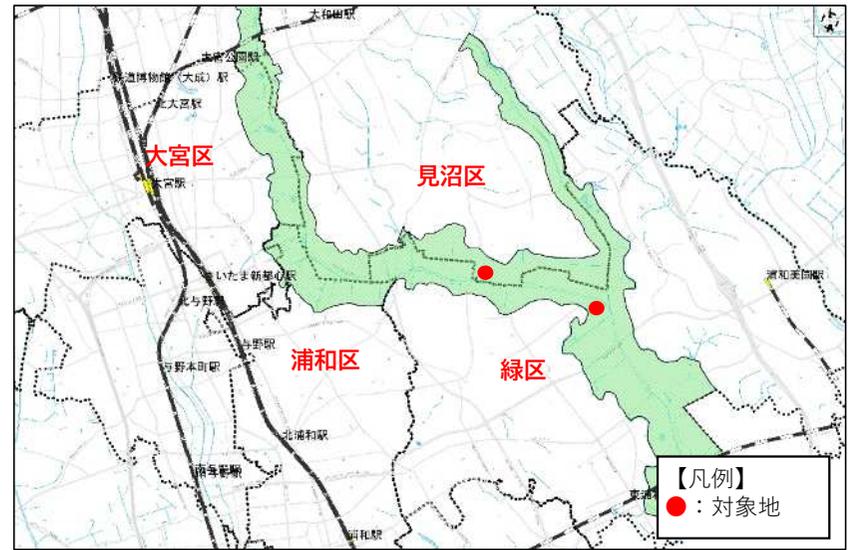
事業の内容

【公有地を活用した炭素貯留農業の実証実験】

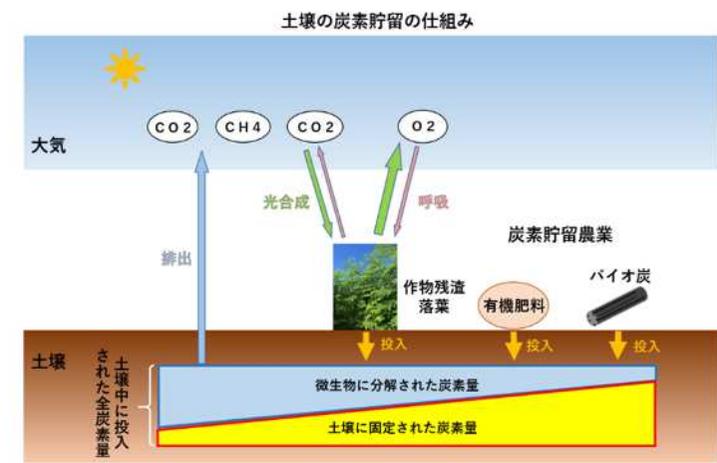
CO₂吸収能力が高いと言われているモリンガを活用した実証実験を公民連携（埼玉大学、民間企業、さいたま市）で実施。

（モリンガ：北インド地方原産。食品や薬用にも使用され、栄養価が高い作物）

- ・モリンガバイオ炭の作成、特性検証
- ・CO₂吸収量と成長度合いの関連性見える化
（気象データ及び土壌データをリンクした成長モデル）



実証実験場位置図



見沼田圃におけるカーボンマイナスの取組み

LP3
担当：見沼田圃政策推進課

令和6年度の実施内容

【公有地を活用した炭素貯留農業の実証実験】

- <結果>
 - ・ドローンによるモリンガの炭素固定量の推計（植生活性度など）9月～実施。（試行段階）
 - ・令和6年度のモリンガは4月中旬から5月上旬に播種した場合順調に成長し、成長のピークは10月中旬であり、越冬できず枯れてしまった。
 - ・収穫した種の発芽実験をしたが、発芽しなかった。

種は収穫時にしおれていた。
シャーレの中にモリンガの種を入れて水を入れたが発芽しなかった。

- ・モリンガバイオ炭を試作した。
もみがらくん炭機にもみ殻とモリンガを入れて作成。
- ・クマバチによる受粉の確認ができた。



デンドロメーターによる計測（最大成長期の特定）



モリンガバイオ炭



キムネクマバチ（花粉媒介者）



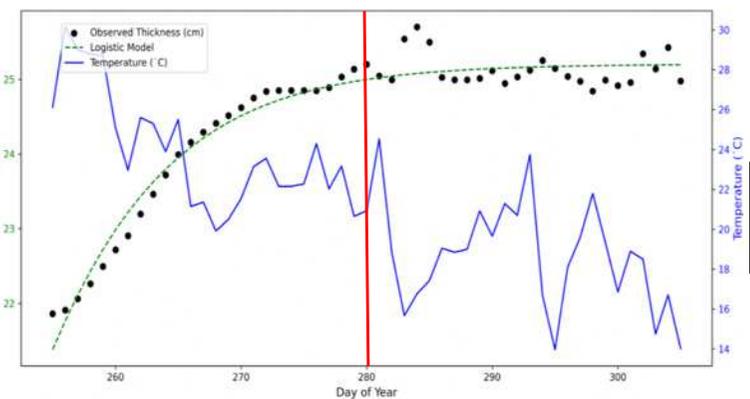
モリンガ種子



購入した種子

R6年度収穫した種子

幹周



気温

見沼田圃におけるカーボンマイナスの取組み

LP3
担当：見沼田圃政策
推進課

令和7年度の実施内容

【公有地を活用した炭素貯留農業の実証実験】

・ドローンによるモリンガの炭素固定量の推計
(植生活性度・葉面積など)
R6年度の試行結果のデータ分析
R7年度は本格的にドローン測定を実施し、データ分析

・気象と生育の関係調査
R6年度に引き続き継続調査。
日照量や気温等のデータとモリンガの生育の相関性を見る

・最適なバイオ炭の生成方法を検証
R6年度に引き続き実施。
低コストと低CO2を目指した生成方法
形状(チップ状にした場合、モリンガの幹をざっくり切った場合)
乾燥方法(自然エネルギー(太陽、風など)を利用)

・R6年度作成したバイオ炭の炭素量の分析
CN比を調査
※CN比は有機物に含まれる炭素(C)の量を窒素(N)の量で割った値



埼玉大学の環境測定器



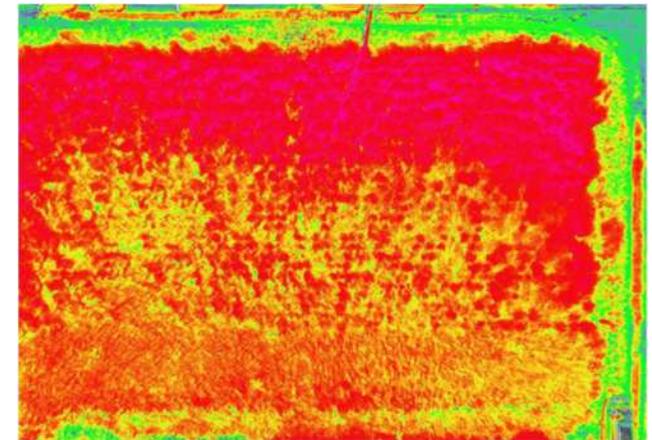
モリンガバイオ炭
(チップ状にした場合)



モリンガバイオ炭
(幹をざっくり切った場合)



公有地のモリンガ圃場(ドローン撮影)



赤色が濃いところが植生活性度が高い。
モリンガ圃場の植生活性度(ドローン撮影)